

UDLM

3

vol.316

March 31st
2022

足跡を振り返って

特集 / 2021 年度 PJ 紹介

- p.2-3 2021 年度 活動の全体像
- p.4-5 2021 年度 活動ピックアップ
- p.6-7 PJ のやりがい・来年度以降に向けた引継ぎ・課題

2021 年度 活動ピックアップ

各プロジェクトの2021年の活動のなかでひとつを取り上げて紹介する。プロジェクトの活動の様子や空気感を感じ取ってもらえれば幸いである。

上野／

第2回アーツ & スナック運動



歓楽街回遊型のアーツイベント『第2回アーツ & スナック運動 - ガイトウで文化を味わう三日間 -』を開催。路上で文化体験を行うというコロナ禍ならではの発想で、様々なコンテンツを企画。グッドデザイン賞を受賞した初代ガイトウスタンドを初め、木製のデジタル加工サービス EMARF とコラボした様々な姿のスタンドが街灯に寄生。いつもは物寂しい通りに、飲食する人、パソコンを眺める人、本を読む人、一息つく人、組紐や帯結びを体験する人。ガイトウスタンドを設置するというちょっとした取り組みで、まちの風景ががらっと変わることを身にしみて感じた3日間だった。この風景が日常になるよう、ハード・ソフト両面で改善をしていきたい。(M1 池内)

小高／

小高の人々にインタビュー



2019年度から、小高の人々が取り組んできた各々の活動の時期や展開、他の活動との関係性について確認を行ってきた。避難指示解除後は、サロンなどのコミュニティ活動が多く見られたが、徐々に事業再開が見られ、地域おこし協力隊制度を利用した移住者による起業家コミュニティも形成されたことが分かった。2020年度は特に、地域おこし協力隊が起業型に特化することの特徴や効果と、起業家コミュニティの存在によって、その構成員と小高の人々の関係性に与える影響についてインタビューを重ねてきた。これらをもとに、震災で一度人口がゼロになったまちで、どのように人々の活動がもう一度営まれてきたのかを明らかにしていきたい。(B3 洲崎)

宇治／

まちづくりワークショップシリーズ



大学合同チームの4大学の学生が協働し企画から運営までを担い、地元の幼稚園児・小学生を対象にしたワークショップを開催しました。「まちにわ」とは、住民自らが思い思いにまちの空きスペースを使いこなし、暮らしをより良くするまちづくりのコンセプトです。
#1: まち歩きをしてまちにわのタネを探す→#2: 様々な材料を使って模型を作り理想の遊び場を形にする→#3: 花壇づくりや芝生張りをし、自分達の手で空間をつくってみる、というプロセスを体験してもらうことで、子どもたちを宇治のまちづくりのプレイヤーとして引き込む大きな一歩になったと思っています。
この次は#4「ふれあいパークであそぼう!」。6月開催予定です。(M1 杉本)

小布施／

「見つける、見つめる、農の風景。」写真展



小布施PJでは、農村集落における地域資源を活かしたコミュニティ活性化と、ボトムアップ型の次世代土地利用制度作成に向けて様々な活動を行っています。その中で、今回「農のある風景」をテーマに写真展を現地で開催しました。小布施町役場や小布施出身の学生さん達と一緒に準備を進めていき、今昔の写真を掲載することができました。幅広い年代の小布施の皆様写真展にお越し頂きました。
今後ともまちづくりに関わる様々な人を巻き込んで、魅力的な農住混在の風景を活かした土地利用計画の策定に繋げていきたいです。(M1 小野瀬・森田)

手賀沼／

テガヌマウィークエンド vol.4
ヌマベケーション

4年目の社会実験となる今回は1.橋の兩岸を一体的に体験してもらう2.朝から夕方まで手賀沼で過ごしてもらう3.特徴が異なる手賀沼の東端と西端でコラボするという3つの狙いのもとに開催した。夕日の名所である曙橋を竹灯笼で彩ることで、日中から兩岸の一体感を作るとともに日が暮れても楽しめる空間とした。また、自作ファニチャーにより水辺とフィッシングセンターの間の橋詰空間を「サンセットパーク」として多様な過ごし方ができる空間にした。さらに、ヌマベを楽しむキットを積んで移動・展開する「ヌマベキャラバン」を制作し、2日目に北柏ふるさと公園に出張した。陸上から水辺、水上、対岸までがひと続きに賑わう様子は壮観だった。(M2 谷本)

みなかみ／

第3回産官学金ミーティング・
水上温泉街再生ビジョン発表

8カ月間の調査や議論を踏まえ、水上温泉中心街の再生ビジョンを策定しました。「水音と共に歩む」「エコパークに参加する」「マスツーリズム都市の蓄積を見出す」というまちづくりを進める上でのスタンスを提案の中で掲げました。みなかみ町の地域資源を生かしつつ、より持続的なまちにしていけるための新たな地域循環や河川沿いの空間整備の提案をしました。今後提案や実践をおこなう中でブラッシュアップをしていきたいです。現在はその内容を踏まえ、廃業旅館跡地の活用案や来年度の夏に実施する予定の社会実験についての検討を行っています。再生ビジョンで掲げた方向性を取り組みの念頭に置きつつトライ＆エラーを繰り返していきたいです。(M1 渡邊)

富士吉田／

まちづくりラボ



過去5年間取り組んできた、横町・大門地区のまちづくりビジョンをポスター展示する「まちづくりラボ」を4日間にわたって開催した。国道拡幅に伴う沿道の建て替えに際し、家並みを継承し交通問題を解決しつつ、緑景観や行灯などの地域資源をより活かしたまちにするための提案を行った。
また開催に併せ、提案の一部である水路沿いに休憩スペースを設置する社会実験や、お寺をお借りした住民向け報告会も行った。地域の方々や観光客など70人以上の方にご参加いただき、提案模型や拡幅後の姿を示したイメージパースによりまちの将来を見る化したことで議論も盛り上がり、共にまちの将来像について考える良い機会となった。(M1 神谷・塩崎)

今年も
開催します!2021 年度
プロジェクト報告会

参加申込はこちらから!



東京大学大学院都市工学専攻では、全国各地をフィールドに、地域の方々と一緒になってまちづくりをしています。今年度はプロジェクト報告会の場に、11プロジェクトが集結。まちに対する多様なアプローチや今後の展望について語ります。プロジェクトへの参画を検討している方はぜひご参加ください。

開催日時 4/13 (水) 19:00-21:00	対象者 プロジェクトへの参加を希望する学生 都市工学専攻 / 都市工学科の学生 上記専攻への進学を希望する学生	
【1部】19:00- 開会のあいさつ 各PJの活動報告 上野 宇治 内子 小高 小布施 手賀沼 みなかみ 富士吉田 本郷 ランドスケープ 本郷 観光寺研究会 先生方よりコメント		
【2部】20:00- 質疑応答 学生による意見交換会		

参加方法 1 右のフォームに 必要事項を記載して 参加申込をする	2 主催者からメールで ZOOMのURLを 受け取る	4/13 (水) 19:00に URLからアクセス
---	----------------------------------	------------------------------

主催：東京大学都市デザイン研究室 学生有志

お問い合わせは下記のアドレスへお願いします。
mail: nkamiya0623@eccu-tokyo.ac.jp
都市デザイン室 M2 神谷南利

PJのやりがい・ 来年度以降に向けた引継ぎ・課題

学生生活の多くの時間をささげてきたプロジェクトを終えた修了生は何を思
うのか、活動の主体となり始めている M1は何を考えているのか。それぞれ

の立場から、PJのやりがい、課題、引き継ぎたい点などを自由に語ってい
ただいた。煮詰まった時に立ち戻り、見返していただきたい頁である。

上野

<やりがい>

活動フィールドが大学から近く馴染みのある場所なので、**実状に沿った具体的な議論**がしやすい。地域のみならずとの関係性ができているのも魅力。

<来年度に向けて>

今年度は2つの通りに対してそれぞれ個別で活動をしていた。上野をウォーカブルにする、その第一歩として2つの通りを一体的に扱いたい。(M1 池内)

宇治

<やりがい>

個人的には研究というアカデミックな側面とプロジェクトという**プラクティカルな側面の両輪**で一つの地域を見ることができたのは本当にいい経験だった。宇治のような良くも悪くもしがらみのある古い町のなかにどのように新しいものをデザインしイノベーションを起こしていくのか考えるきっかけになった。これからの実装段階に期待。

<来年度に向けて>

2年間でしっかり地面が固まってきたと思うので、来年度以降はチーム全体の動きを俯瞰しマネジメントするのは継続しつつ、**どんどん手を動かしまちにわを育てて**いてほしい。現地のプレイヤーともどんどん絡んでいてほしい！(M2 河崎)

富士吉田

<やりがい>

今年取り組み始めたばかりの対象地なので、やりたい提案を実際に動かしていきやすいところ。**今後の活動の可能性が自分次第でいくらでも広げられる。**

<来年度に向けて>

駐車場整備予定地での社会実験で"実際に動かす"時期なので、人員確保が最大の課題。今後まちの核となっていく場であるため一層力を入れていきたい。(M1 神谷)

みなかみ

<やりがい>

空間がまさに動き出すリアルタイムプロジェクト。学生同士や産官学金で議論を重ね、空間提案がブラッシュアップされていく、そのプロセスが非常に面白い。自分の引いた線が実空間として形になる可能性も。M2 鈴木)

<やりがい>

デザ研の地域の中での立ち位置がいわゆる「地元大学」なので、まちや地元プレイヤーと密度高く関われるし、その分短期的にたくさんのアウトプットを出し続ける強度は何にも代え難い。

<来年度に向けて>

構想が実装されていくプロジェクトという意味で、学生らしい柔軟なアイデアは大切にしつつも、**どういう風に運営していくのか？お金はどう回すのか？という現実的な部分にも挑戦**して行ってほしい。また、ガイドスタンドをよりまちの日常にしていってほしい！(M2 河崎)

<やりがい>

まちの調査や提案の検討を通して都市デザイン・まちづくりに関する考え方が体得でき、その過程で中学治や研究室メンバーとの関係を構築できること。

<来年度に向けて>

この2年間は調査・分析・提案検討を行ってきたが、今後はそれを**何かしらの空間的なカタチ**に落とし込み、まちにインパクトを与えられるようにしたい。(M1 若松)

<やりがい>

関わっているエリアも広く、街自体も歴史があるので行くたびに知らない部分に出会える奥深さがある。また依頼されている幅も広いので、リサーチから提案、実際の場所作りまで関わるができる点も良かった。(M2 松坂)

<来年度に向けて>

今後は既存のプレイヤーが多い下吉田での活動が中心になるので、より多くの方々と連携を取って、ときには頼ることで、短期アクションを充実させていってもらえばと思います。また、人数が少なく、**自分の関心が活動の方向性に反映されやすいPJ**だと思います。過年度の取組みに囚われず、**どんどん先生方にアイデアを伝えて、いつか久々に富士吉田に来たOBOGを驚かせてほしいです！**(M2 齋藤)

<来年度に向けて>

今年度構想したことを来年度以降は実践していきます。そのためにより多くの住民やプレイヤーをPJに巻き込んでいきたいです。(M1 渡邊)

手賀沼

<やりがい>

自分の提案に対して現地で活動する方々から正直な意見や**要望を聞ける**ことはとても勉強になるし励みになる。たくさんの方と協力して実現できた時、良い反応が得られた時の達成感は大きなやりがいだと感じた。(M2 谷本)

小高

<やりがい>

広いテーマの中から自分のやりたいことは何かを見極める大切さと、取り組みを進めていった時の達成感を味わうことができる。地域の方々に自分たちのやりたいことを理解してもらい、活動が広まっていくことを実感できることが嬉しい。

<来年度に向けて>

震災から10年が経ち、当初掲げていた復興の意味合いも変質していく中で、プロジェクトの立ち位置を考え、**新たな関わり方を模索**していく必要がある。地域の方から様々な声を頂く一方で、人員不足もひとつの要因ではあるが、PJとして何に取り組むべきか、どう協働していくべきかのバランスが難しい。(B3 洲崎)

小布施

<やりがい>

小布施町役場、そして小布施町出身の学生さん達と連携し、深く関わりながら、**農住混在地域の魅力ある景観を土地利用から考えられる**ところはとても魅力的です。

<来年度に向けて>

今年度から小布施町役場や長野県の農政部、そして小布施出身の学生達とますます連携が強化され、複雑化しているので、現状把握が何より大切です。(M1 小野瀬)

<来年度に向けて>

2年の間に自分が取り組んだ内容を振り返って整理すること。初期構想だけして実践に向けては動いていないプログラムの資料などを、来年度以降のいつかに役に立てようまとめておきたい。

どんどん広がっている**現地の方々との関係**はこれから**大事にして欲しい**。色々な面から活動に関われるのは貴重だが、ついていくことだけで精一杯にならないよう自分なりの軸や目標を持って入ってもらおうと思う。(M2 谷本)

<やりがい>

小高では震災の影響が残る一方、様々なプレイヤーが常に新しい何かを作り続けている地域でもあります。PJの実践を通じてそうした人々と出会い、協働して何かを動かすことができたことが一番のやりがいでした。

<来年度に向けて>

大学側が主導する活動に加えて、地域の皆さんが起こしている様々な活動に飛び込んで参画し楽しむこと。そして地域の変容を自分の目線で切り取り、学術的に考察すること。この二つを両立する姿勢を貫いて欲しいです。(M2 植田)

<やりがい>

PJ全体の当面の目標としては全国的にも事例の少ない集落地区計画策定に向けて進めています。役場の各課とも連携しながら、いわば新しい「事例」を作るプロセスに関わっている実感があるのは大きな魅力だと思います。

<来年度に向けて>

当面は解析・設計・合意形成のサイクルを地道に続けていくことになるかと思います。まちづくりの先進地である小布施で、他地域の手本となるような近郊農村再生の**新しいカタチが作られる**ことを期待したいです。(M2 齋藤)

COLUMN

BOOK OF THE MONTH



塞王の盾

今村翔吾
集英社

推薦者
M1 合田

戦国時代の石工職人・穴太衆を主人公にした物語。ストーリーの躍動感もさることながら、都市において独特の存在感を醸し出す石垣の建造背景が詳細に描かれている。要は戦国時代のゼネコンの話(雑)。美しいものには人の手のかかっていることがわかる一冊。

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で！
<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ie/blog/>



第5回 産官学金 MTG

みなかみ PJ で進めてきた廃墟旅館と付随施設の活用案を学生側から提案し、関係者の方々と議論を行なった。年度頭に描いた温泉街の将来像に向け、来年度は実際にアクションを仕掛けていきたい。(M1 神谷)



追いコン開催！

M2・B4生を対象とした卒業生・修了生送別会が行われた。なんとか対面開催にこぎつけ、M1側からの企画・贈り物贈呈等により、会は盛況のうちに終了した。皆様一路順風をお祈りします！(M1 合田)

LOOKING BACK AT MARCH

1st	みなかみ住民説明会
17th	上野 AnS 実行委員会
18th	みなかみ産官学金 mtg
22nd	追いコン
24,25th	学位授与式

POSTSCRIPT

各プロジェクトで各人が多くの壁に当たりながら試行錯誤していることと思う。目の前のことに精一杯注力しつつ、それらが自分達の関わる2年を超えたその先へも繋がっていくことを信じ前を向いて進んでいきたい。(M1 杉本)

